



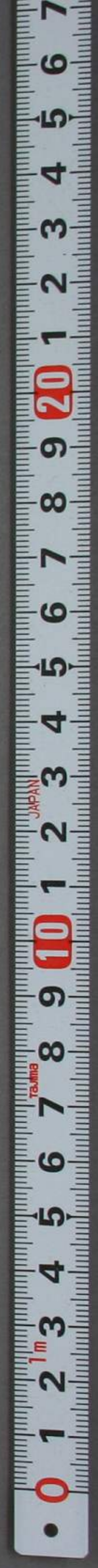
新板
録入

金銀糸ちりめん

下
巻
終



遠
1617
6



1517
6

下伊勢新



全書神道ぶくを美くす

墨を義弘本を悦一岡録の事

人のたのまを初てふ家に入ふ身とあこなるバ
 義のふついでるなり一かこたるを春と一
 たごはとを礼と一今ざらよお通せのバる
 て色あうげたれぬを懸一先王は法照ふ
 あつとまじが何て、あ眼せんらの徳はふ
 何く出れん教てたこなるが先王は法言ふ
 ぶ在があてふと孔子を無一あはひ
 なり一年阿房れ必墨見義弘つらんあ

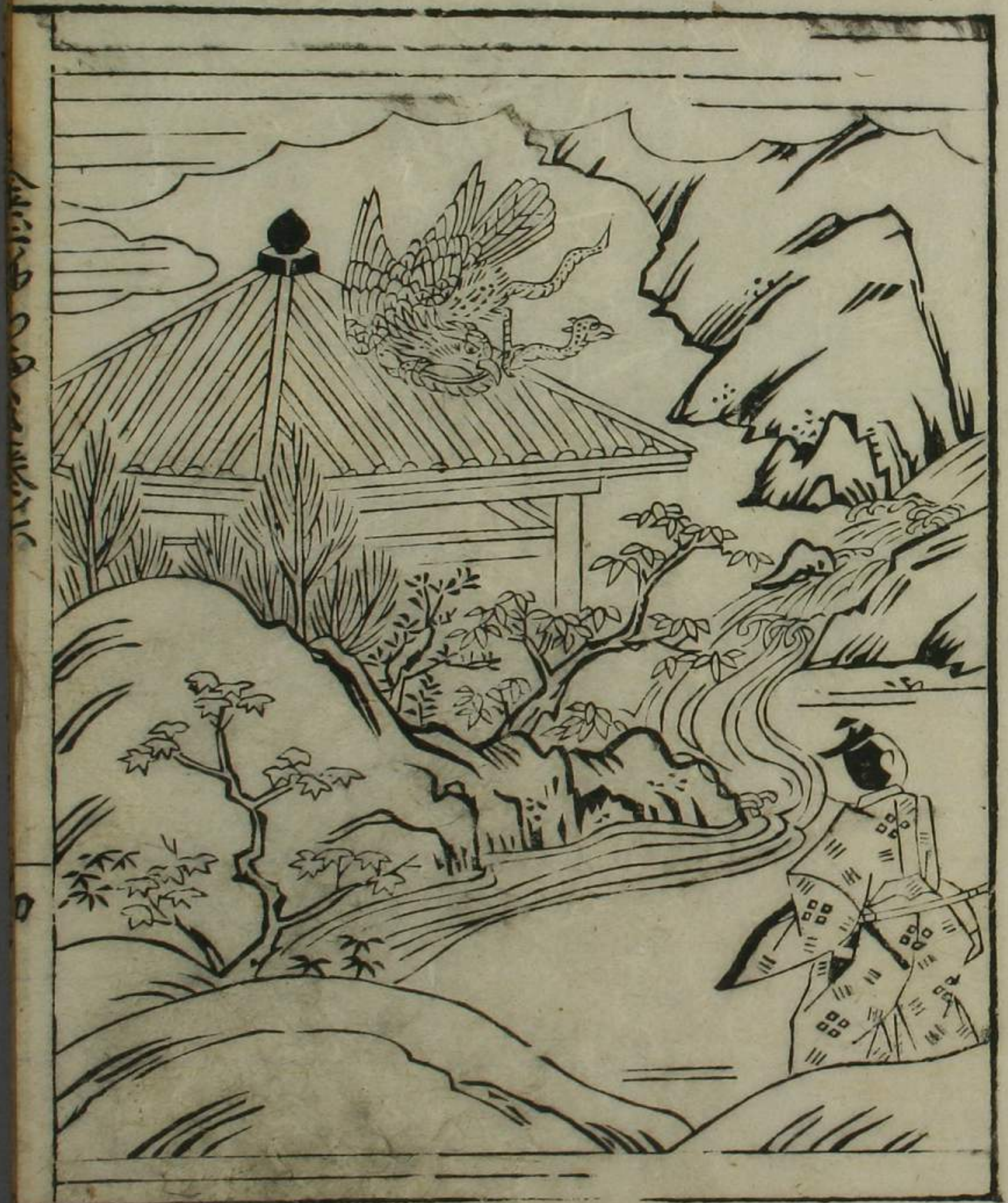


敷とたうい後ゆ和陸一て其国此合盟
と海多びたぐいよ玉さうらんあ合向後さ
一あわさる首とちうらんこれ我おれさ
ゆるあ回又人送へ陸お城おと離うく事こ
里めて山あうささと陸てこあなる地
送とあうみうぐくとさなく却せす又その
大地一とあうつれたさなる判とん付て陸お
退うちりまこひたごは飲ぬくくたごら
こあすさま。此あうさあやと軒くると
とくて保長けまはすよや半とれみま

て下なるさ人ちうちうらふまさうい大蛇の
形はあよちいさふなりとんと昔をへ
くさうく一ははう此小蛇こなりと
へうれんと陸さうらふ空あてさ一とあ
一うけるびとんては蛇とらう蛇と
うけ二所はうとああなる時書入や孫
あてたち海地ふりさ地吟ひぬくくたご
らとさたが事なうととあ画後のたひと
なりとれはひひらりされけるは出さ
はすよやれ格す又の形の付らとていなる牛

とよむる一が善成後形の悪力ハ
今三三此小蛇とわけてハとびとよむ
割する力なり一此まじバ蛇のこふらぶら
づに人をも大身ゆ身此あわのて身
ゆさう海の賊とやう一大身なれば
大身此力と用ひゆ身なればゆ身此力と
取らぬまをひて大身悪経小あうづら
らん鳳をの雀と群と同ぬせむとらり
ゆら小我今日命いのなればとてゆせら
ゆて教ふたひじくそ大一やれ小蛇と

如て善教小あうぬづら一此とて氏計
ハ情大がさうれま運とせちうはゆ示
現なるぐ一善教と氣會して一旦奉の
愛あつたゆせのゆてあるはづとこそれあう
づまを死て海一二交命あつたあさう
一こやゆよ大名ハ大名の行をせうのこ
に兵の時ハ邦境とせちう行時ハ行列と
海軍ゆハ紀律隊系一傳ゆハ隊伍隊
個人奉とほう威とやう一て攻取とた
さく我ととびち其のゆとお美ゆゆして



らう其の妻ハクロークロー一若者のまじ強
ちるはしてまゝハクローたれまのひとと一而
燈グ偽のまのひとのまじぶあ方とりみれよ
うありは澄めハクロー生ひひをほろろに
みまじりくすところくあまじく町くつく
山休ハくいらヤツくとそれくハクロー
守りし聖人れたをてみまじりあぐう
ざらめののう

箕の尾の籠ハ弁天の浄玉

振列箕尾山ハ多んれ行者の開基ハ

ハ弁天女山ハ磯くくして美云のつらハ
たしくくして弁をけくせう行者の
究三後乃れ生のたれハ弁天を
く更ハハ岸乃天女ハ現すくハ
何生得うぬくハ後のつらハ
一は乱列乃天の川乃目切ハ五ヶ
あ乃天女ちん産れ其現なりハ
てんハ利益とくハひたてまつ
ハナハ親乃ハ海を穿ハ神ハ王と
あつりれあくハ命ハ弁天ハあ

どうしてどうして二世の勢位をばせしめ給ふ
た又童子三方六千れまんぞくをばせしめ
給まんぐれえ生とまりん給らん
障守乃三雲神を降伏すしくあり
さの難を拂ひたるふなを以てけ天候
の軍の軍の室降の由てを備り多貴金
賊童子乃内務れけんぞくは遊者童子の
うけ九師や八師泉とじ百世はたちき
子多童ハ八師降童子多師ハせん車
ト問やハ半るぞうト極女申系ハあひ

慈とて子問の師のらハ筆破らうト
守りたるふはまは士農工商はきりま
け天の利益を多くばらんを以てて
るあ守りたるは定まの合員とせんト
か田来りてハ三三をばるは形を
徳佛の形ありくなれとせさいと利
生の方便りけてりちをばるハ大徳光
あそこは備後徳てん地をここへ天候
さい王てん女又童子の由むせの
つとけぬ弘法大師乃さのんめ色

後傳の六事ハ五事ヲ中ニ一ニ生乃
期するハ後傳ヲ終ニ終るニ終るハ
夜も空響の後田小あらう昔藤の
万行を神王に秘藏ありおたうと
とうせたるよしまじくそを傳ふらま
うそはゆせざらんよ小津必津後乃
傳人矢野曰希た東つと得一人新代
まてきき色らんよとやう一系とらめ
傳なりト一うは事子伝合せぬたらふ
れ何ぞうのうまふとて秘傳ひ

定葉赤能將の由せんはゆ傳一毎
二年七月乃あふあゆとてとび
よ一のあふ実阿らうねこれありあ
せんがうれ首とくあけ日年二月下旬
あれとあうのる二家此男女のうたさん
けい一柿前小わらては旅たてまう
それのう奥の越人のあれは首あのを
までとて二天外ハ生一うりて山二葉の
葉んで凡あのをと敷流ハあのお例て
水声徳とら川流小奇なる凡葉なる

三浦一くこの遊うかのあつらひをあらわし
と御側へて草を分りてむとぞおきてい
うべしきん當年九歳の女子一人遊うた
たびこみむきくこらめおけりゆく
水小舞入らまて次女をいふにありふ
きりま梅をいふなりと皇女をけまじ
くおたのこて死なむとていふもなき
喜ゆふちひろれをくまひつて再び終
ぶふんふれはま梅よりせん方なくは
下向一梅をいふる多たうたえ

俄利生あてちち龍あつらふなるこて色
子を失ひてあつせんこめき歌をいそれな
む一やれをとおこ一ゆ小老おあまく乃
とやをなまきバさの一珠室及王位らん命終
時を信一やこ女を多貴れをいやみぬれ
はたのづうあげく色あこらう次女よりあ
ゆあころくかあをいへ田畑も色はあま
たうと一多れへまぐく色なくすう終の事
ハ使合あぐ終をいへゆあを光陰はら
つとはや七年れ皇女を絶たうとてうま

金三ふのあつらひ

ど色合八錢寄つれわ——さごあさうう佛赤
 と梅のころ色おこるに天女をくぐれ梅色
 さあぐ眼くれきおひれ取らうも——うらわハ
 七回三の令目あまこて隣家の侍女を
 よひ集ころばううれつせんやなせ——
 がふらやなをれあん中三人同刀籠るん
 あぶ竜のおとらうこくお下あつむこく
 とつち記して其申あり年だれ十回またの
 格一人あつりまお牙あつをたるおと梅うく
 ぐぐれううこ肝を清——是ハハチる成りい

なるんとすあへぬげちりしが暫くあつて
 阿る——まぬをあらうくあめこのあひ恐
 ——ながる四をせげはあんを空電れまの人
 小い後ちやぞみあうんとぞん海り——
 何こそおのくあへ佛よこ家話さうう路ひ
 ——今暫く後——あへと初とう侍お
 顔とさげまもさ——く星の角のたまくと何
 こて揺果く家話をれはけての遊具をあ
 らやま——やと他人のいあく恐れねれさ
 父母のあつ——く鏡く——んれハ喜る

一 昔のゆかりのやうなうたなく月日をたへ
 絶へんとして形もたへなくしる神もたへん
 たへんはゆかりのやうなうたなく月日をたへ
 絶へんとして形もたへなくしる神もたへん
 さればあまの側へ立ちあがりてさてもたへん
 けむりの中へあがりてあまの側へ立ちあがりて
 さてもたへん
 うつくしき色なきぬれなげさな色なき
 小たへん
 けむりの中へあがりてあまの側へ立ちあがりて
 さてもたへん



よひたのうへにちのふらういしほけはねいけう
免負めてなれやまゆめいづらうが死せし
よやいのよ真の山の山おて乳母や母へ
みはぐれまらせさあひひーあうまておけら
うなるあひひらううあ羅の細やほう地
あて室のゆきーい流の山金れま塔え
まはれ川のまゆめとあうたらあ攻のあ殺
百んぶあまどまへ流流れ帆やまのい
うげもまて珠の車よちああの格やつそ
るやとこくは牛ふるうけ庄えんあうま

あめこの宰料つきたあひそいなんたら
報の申れくら一庫持たうなり後まごそ
かめんが報のふこの食る葉つもいほく
今すこー伝の功とつこ者ごうとほは
こはくさせあうほげさうげああなる
ほめくあうては金やを報ふまよとれあ
ーがあめむとまなくご報とまなくは
なへあうたらうごう報のまを誰れ
らうくへあうて戸とらう間人あーごめ
思ひとあーはま中を場てんれはよ

三四八箱へおくつまはれあり下はむくく
りづくへ無ぜー送もえへはねだんくは
仕合申うあさなひをーして穿らあぐる
たるおの持の給ふりう耕作をすまは年
小水早乃うまくなく一壺九箱の又穀
まのうはばねもを命めて次申ふらう
まは門弘入り病ぎんあひのいんあく
子縁はんやうは家とあまう穢よ信公
きんごのまこばう穿のせの給室ーんくは
皆人我者ごうはあーままをまふんその

まへ取ひくありまへば還てうらうひと
あこー信公やまぬゆのゆの信よけひ
難ーあだつこらやのへ自業の体
らうせあつひの火難あいの大我んつ
小色まへ余想やつくませおれあり
はあまをとあへたぬ小難まうりまら
るんがなり

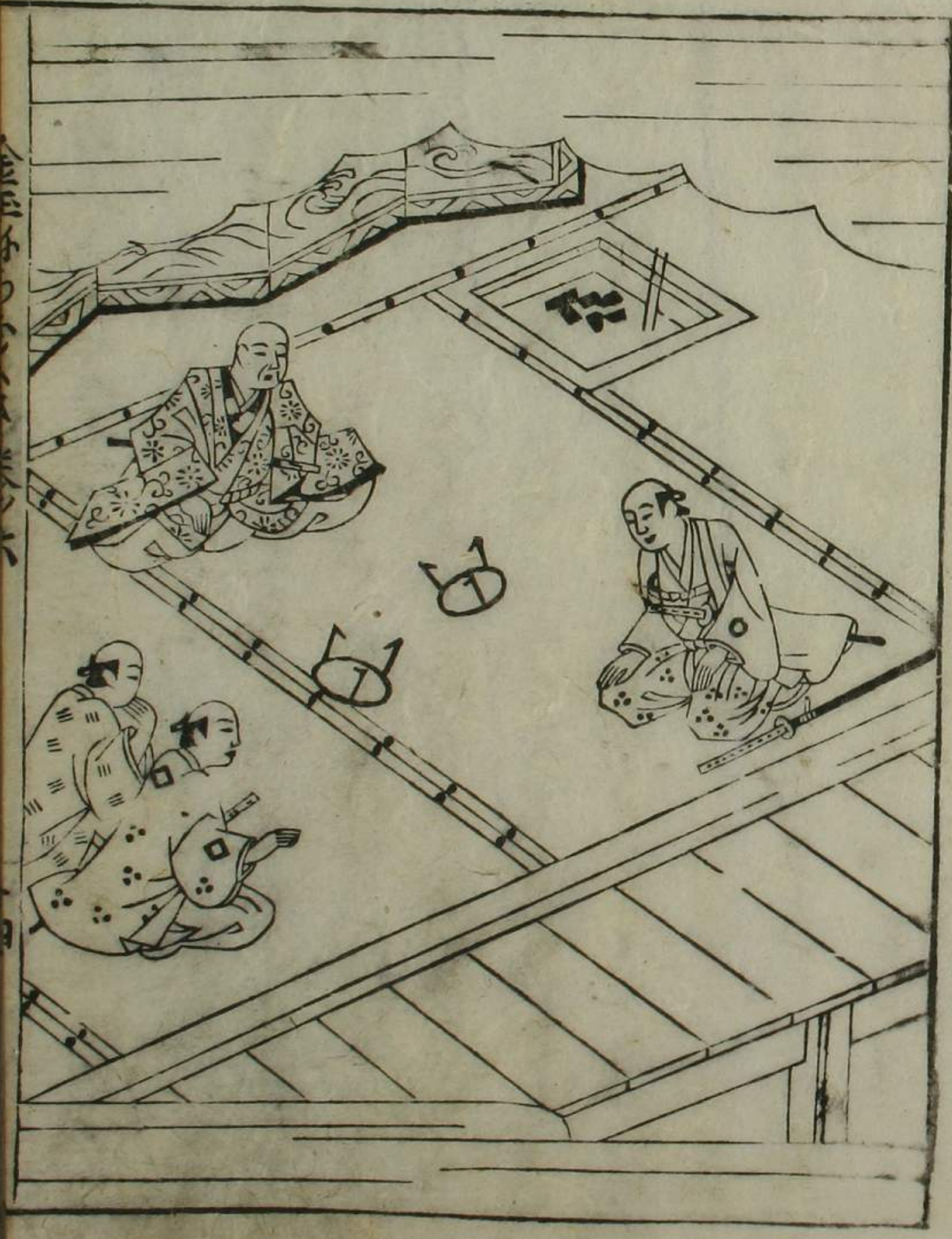
山が勅入返ち夜の手

人の賢愚ハ其の能人其信得ふりつ事
たふし取小おれくの天命と文ねる

うんせひもなりの一其申よ勢あらん
いふふ及たえねらんなるこそ目
能たしなこそ事ふあめて物ふ勤し
ハ其子の一世あり本田伝云け家老山
中助女入遠る花冬城せし守ふ上
いふあつらりあそくたのまこと
うご紀あててあめの男女れごらん城入人を
ほらせそて遠をよ其の海や昔をわらわ
さむいふこそとや守ふと聞ゆるまご
な——とやうれ事いふのまごのまご
十一

うんせひもなりの一其申よ勢あらん
いふふ及たえねらんなるこそ目
能たしなこそ事ふあめて物ふ勤し
ハ其子の一世あり本田伝云け家老山
中助女入遠る花冬城せし守ふ上
いふあつらりあそくたのまこと
うご紀あててあめの男女れごらん城入人を
ほらせそて遠をよ其の海や昔をわらわ
さむいふこそとや守ふと聞ゆるまご
な——とやうれ事いふのまごのまご
十二

さいのやまのぼるに二のぼるに一又ほに二のぼる
 ありていしてほめはらうのありとれざうの
 其のぼるにほをらうしとほほなるありとほ
 りふはうのなり一ほをけほとつくと
 りて暫く思ふとちがらし奥よりあり
 うの又ほやれち一其れなる又ほとあり
 べれとほれとほはらうとていほをほ
 ちほはほほとありとほほとありとほ
 よせとほのほとありとほほとありとほ
 せんよとていほほほほほほほほほほ



おごりやゆづり（は）いへい田舎（あ）ておろ
 ちりいいたのふくをねふ（ま）ぐく奥の衣
 ー（ま）お（ま）か（ま）け（ま）て（ま）い（ま）つ（ま）の（ま）ふ（ま）ち（ま）お（ま）は（ま）ら
 ち（ま）の（ま）い（ま）ふ（ま）き（ま）ふ（ま）ね（ま）ね（ま）それ（ま）の（ま）あ（ま）
 中（ま）北（ま）山（ま）休（ま）ご（ま）の（ま）よ（ま）び（ま）な（ま）あ（ま）ち（ま）ら（ま）づ（ま）き（ま）を（ま）
 か（ま）行（ま）力（ま）あ（ま）て（ま）そ（ま）体（ま）行（ま）と（ま）免（ま）ゆ（ま）事（ま）な（ま）る（ま）
 備（ま）い（ま）や（ま）と（ま）君（ま）ま（ま）じ（ま）ら（ま）づ（ま）き（ま）を（ま）た（ま）の（ま）ま（ま）と（ま）ら（ま）
 つ（ま）い（ま）て（ま）信（ま）あ（ま）の（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）と（ま）ー（ま）あ（ま）ふ（ま）は（ま）ら（ま）ら（ま）
 末（ま）座（ま）か（ま）の（ま）山（ま）が（ま）ー（ま）人（ま）す（ま）ふ（ま）か（ま）移（ま）る（ま）所（ま）
 ろ（ま）う（ま）傳（ま）交（ま）り（ま）密（ま）法（ま）あ（ま）て（ま）と（ま）今（ま）う（ま）ま（ま）で（ま）あ（ま）ら（ま）

おまゝのふらうたびくーいぞくとあうー
 なるのちをいじりてはねぐば正（ま）方（ま）行（ま）う
 尸（ま）や（ま）ふ（ま）こ（ま）て（ま）座（ま）纏（ま）よ（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）ま（ま）じ（ま）ら（ま）づ（ま）き（ま）則（ま）う（ま）の
 ろ（ま）ら（ま）り（ま）た（ま）る（ま）ふ（ま）だ（ま）ん（ま）ぞ（ま）う（ま）あ（ま）ら（ま）ん（ま）た（ま）ん（ま）と（ま）は（ま）
 て（ま）移（ま）ら（ま）と（ま）ま（ま）れ（ま）ば（ま）実（ま）行（ま）方（ま）の（ま）事（ま）務（ま）と（ま）ら（ま）て（ま）
 それ（ま）あ（ま）り（ま）ふ（ま）と（ま）く（ま）魚（ま）よ（ま）ね（ま）ら（ま）と（ま）ら（ま）や（ま）女（ま）ね（ま）返（ま）を（ま）
 や（ま）ぐ（ま）て（ま）は（ま）山（ま）あ（ま）ら（ま）と（ま）ま（ま）ぼ（ま）あ（ま）ら（ま）ん（ま）ら（ま）づ（ま）き（ま）て（ま）
 積（ま）座（ま）ー（ま）と（ま）れ（ま）又（ま）海（ま）と（ま）れ（ま）と（ま）せ（ま）ー（ま）と（ま）ら（ま）あ（ま）ら（ま）
 や（ま）う（ま）に（ま）ら（ま）く（ま）物（ま）平（ま）ら（ま）と（ま）ら（ま）着（ま）物（ま）と（ま）り（ま）あ（ま）ら（ま）
 ろ（ま）り（ま）て（ま）いた（ま）地（ま）あ（ま）ら（ま）と（ま）教（ま）室（ま）と（ま）ら（ま）と（ま）痛（ま）く（ま）

驚つれて山休りするは備うたぐ命のふゆ
 さうゆたあびよあうくをたごうせまうく
 りこり一移るとやれはハ機小奇氏の駢者
 とたが一頁何後山後後よ移り出分
 山極一は孫梁とれう一西を移たう出
 ぬ引移あう貴人のものぬらん事を
 わくれどく巧一うもを伝まて此山
 へたあるべう移いなるへさうひ者ぬ
 出家老のぬりあれは機の色回せんよ
 かん一料ぬ人ぬあまき書を移い

肥たる程の程とてなえはさみ
 性めて又性をばいらかせ移り
 改ひゆふはまをて元すてさせり
 小おんを移り移り一運のついな
 一ぬぬせんであひたふ一
 色らうらうふなるえんまふ
 せん事をさうあうすあぬ
 くりと一ぬ一ぬとあうの
 白粉せ一うは袋中ぬは

のかけと乳刈ー其のつらさめてハなれら
なんぢら新橋せーの又き橋つらさめて
せん小橋さきと乳まじりたるおもしろ
さあるうかこてはれどー又橋おらう
おー二人三人同やまじりけしおもしろ
物ふれバ樹をすまじりてびよくはらへ
吸つてさかたてはあつたまじりやま
はなれどー一層おらあびて魚せどある
又海と吸ひまじりたるの性ハつらー又さくハ
ありーむくくとれどらう揚さくお中
沈

本りおはらさなりー遠きは山仰ふむくハ空
ちて海とぬふ海と子おあどー今
此の言のまきバらんおあり南城の虚三ま
ちらん為あんちどさくおび小入さ味方乃
備くや空銀梅なるべーまらま又白物さどー
こ再ニくうりんおるびーうと色別れ子細
色あつさるあ人海ふおれつらあは橋あて
種を敷くんさせー一平蜘蛛のあまふ大
周と為せうあつ海と煙んとするおまほし
海まごとも千文乃提色蟻穴ありうらめし

ころくハ考ふゆめ事よの色は^あ政^{だん}すむとめあはら
 とそれのう周公^{しゅうこう}の^あく^くま^まび^びく^くし^し山^{さん}の^の
 免^{めん}罪^{ざい}を^をな^なむ^むち^ちは^はま^まし^しと^と色^{いろ}を^をあ^あや^やめ^めハ^ハま^まぐ^ぐし^し
 申^{まを}一^{いっ}色^{しき}と^と追^お放^う一^{いっ}色^{しき}の^のう^う送^お花^{はな}を^を後^ごに^に
 う^うま^まい^いく^くし^しと^とま^ませ^せい^いま^まて^てら^らの^のく^く軍^{ぐん}色^{しき}を^を
 言^いく^く隣^{りん}の^のく^く色^{しき}を^をれ^れう^うま^まは^はり^りぬ^ぬ

金三郎の巻の終

吉野地本町町持田
 伊勢屋
 岡 新兵衛



